

持続可能な開発のための教育（ESD）

ESD（Education for Sustainable Development）は、「持続可能な開発のための教育」と訳される。現代の世界には環境、貧困、人権、平和といった様々な問題があり、これらを自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動がESDである。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。

1 ESDの目標

- ◎ すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
 - ◎ 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
 - ◎ 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと
- （「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」より）

ESDの概念図



関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組む必要があります。

※日本ユネスコ国内委員会ウェブページより

2 ESDを通して児童生徒に身に付けさせたい力

- 1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切である。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められている。

- 2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣を持つ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしている。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくない。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められている。

- 3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはならない。様々な考え方を持つ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められている。

3 学習指導要領におけるESDに係る主な内容（例）

現行の小・中・高等学校等の学習指導要領の中には、持続可能な社会を形成するための視点が盛り込まれている。

例えば、小・中・高等学校の学習指導要領解説総合的な学習の時間編には、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題は、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、こうした課題を総合的な学習の時間の内容として取り上げ、具体的な学習活動としていくことには大きな価値があることが示されている。

各学校において、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、ESDを効果的に行うためには、学校全体で計画的に実践することが必要である。

★ 学校における取組事例

地域の自然を教材化したESD

三次市立安田小学校

1 活動の概要

自然豊かな環境の特徴を生かし、「安田の自然を素材にしたESDの推進」を学校経営の重点項目に位置付け、ねらいを明確にした「安田ESDカリキュラム」を作成し、理科、生活科、総合的な学習の時間を軸に、環境学習に長年取り組んでいる。その取組が評価され、平成26年2月にユネスコスクールに加盟した。

児童一人一人が、地域の課題を自らの課題として捉え、絶滅危惧種であるダルマガエルの生息環境の整備や、地域の山野草をガイドする「安田子ども自然ガイド」、環境保護を訴えるポスターの地域掲示等の環境保全活動を行っている。これらの取組により、地域の自然を大切に思い、地域を愛する児童が育成されている。

【主な取組例】

安田子ども自然ガイド／ボランティア清掃活動／学校環境ISOの取組（ごみの減量、節電節水活動）／地域の自然、生き物をテーマにした科学研究／川学習（水生生物調査、水質調査）／安田ネイチャーカレンダー作成（動植物を観察し、スケッチしたものをカレンダーにして家庭や地域に配っている）

この部分と関連する学習等を色別で示し、写真を添えることで1年間の取組をイメージしやすくしている。

2 取組のポイント

- ☆ ESDを通して付けたい力を、① 科学的な知識を活用して多面的に考えたり、説明したりする力、② 日常生活に見られる自然事象を総合的に考える力、③ 自然環境や生命を尊重し、地域を愛する心情を持ち、実行していく力の3点に整理し、児童の発達段階に即して指導を行っている。
- ☆ 研究推進計画にESDに係る研修を位置付け、校長のリーダーシップの下、全教職員でESDの理解を深める取組を行っている。
- ☆ ESDの視点から、教科横断的な学習を充実していくために、学年ごとに「安田ESDカリキュラム」を作成し、学年間・教科間のつながりを意識して活動を進めている。
- ☆ 学校と保護者、地域が連携・協働して取組を進めている。

安田ESDカリキュラム

ESDを通して付けたい力

- ① 科学的な知識を活用して多面的に考えたり、説明したりする力
- ② 日常生活に見られる自然事象を総合的に考える力
- ③ 自然環境や生命を尊重し、地域を愛する心情をもち、実行していく力

理科	4月	5月	6月	7月
	発芽と成長	メダカの誕生		白鳳と緑毛
総合的な学習の時間	【安田地域の動植物を調べる】 【安田子ども自然ガイド】		【安田地域の動植物を調べる】 【安田子ども自然ガイド】	
その他の教科	安田の動植物の調査方法を考えよう①		地域の動植物を科学研究にまとめよう 調査方法によって調べよう② 調査結果をまとめよう③	
道徳	クリーン作戦【感謝】	水河で発見されたミイラと火【環境保全】	川学習	アンパンに日本の風景を【国際理解】
行事	安田子ども自然ガイド	ダルマランドの田植え	安田子ども自然ガイドⅡ	川学習

安田子ども自然ガイド：安田の動植物を学習することにより、愛着を持ち進んで学ぶ

科学研究：科学的な知識を活用し多面的に考えたり説明したりする力をつけることも

ネイチャーカレンダー：遠征の自然学習を通して捉えた身の周りの生物のスケッチを活用し

安田の環境を守る：自然環境や生命を尊重する心情を育て、自分にできることを実行